

中国 台湾 韓国 インド携帯電話四半期出荷動向

2009年1Q(1-3月)調査結果概要

中国

中国に生産拠点をもち大半の外資、国産メーカーの端末出荷は前期4Qを下回った。オペレータからの大量調達を受けたZTEなど一部メーカーは前期の出荷水準を上回った。

季節面から輸出が前期比で大幅減になったものの、国内向けはオペレータの積極的なキャンペーンと家電下郷政策から前期4Qの出荷水準を大きく上回った。家電下郷の指定メーカーは1Q以降も引き続き堅調が予想される。家電下郷は農村振興のプログラムで、1Qの加入状況をみても地方の加入増加が目立ち、相関関係を示唆している。都市部での3Gの普及は下半期以降になるため、当面は地方都市、農村向けローエンド端末需要が牽引の柱になる。

家電下郷は農村振興の側面とは別に貿易黒字縮小、家電メーカー救済の目的もある。中国では輸出に対して13%の還付金を支払う制度があり、今回の家電下郷も同じく13%の補助金を適用している。生産過剰気味の家電、携帯電話業界を海外から国内に眼を向けることで、業界の安定を図る狙いも一方ではあるようだ。

家電下郷は2007年12月の山東省、四川省、河南省で試験的に開始、2008年12月には西武、北部1都市(武漢)、6省、2自治区、2009年2月には北京を含む5都市、13省、2自治区でスタートした。いずれも4年の時限立法になる。

台湾

端末メーカーは生産規模の低迷から外部生産委託の縮小に動き(Nokia)、またMotorola、Sony Ericssonがローエンド分野から撤退する動きなど、台湾ODMメーカーを取り巻く環境は厳しさを増してきた。1QのODM、自社ブランドメーカー(単純生産委託は除く)の端末出荷は前期比36%の大幅減を記録、2005年3Q以来14期振りに2,000万台の大台を割り込んだ。ODM2強の内、ArimaについてはSony EricssonのほかLGへのODMも拡大しており2Qに期待をつなげるが、CompalはMotorolaからの受注が急減し、2Q以降の出荷増は見込み薄といえる。

自社ブランドメーカーの大半はSmart Phoneメーカーになるが、最大手のHTCは出荷調整と次期モデルの狭間で1Qの出荷台数は前期比34%と大きく減少した。HTCは2QではHTC Magicを上梓するため、1Q対比20%前後の売り上げ増を見込んでいる。

韓国

韓国の1Qの出荷レベルは前期比で1桁台の減少に留まった。特に米国向け、国内向け出荷が安定的に推移した。Samsungは端末生産の海外分散を推進、3月からベトナムで端末生産を開始した。2Qは試験導入時期になるため韓国、中国での生産の影響は軽微とみられる。ただ下半期からはローエンド主体に生産を増加させる予定で、中国生産に影響を与える可能性がある。

4月から韓国国内は外資メーカーの参入が相次いだがいンパクトはみられず、むしろ Samsung、LG の上位メーカーの販売が好調に推移した。

インド

インドは中国同様農村部のローエンド需要が1Qを牽引した。需要の大半は普及率の低い地方の新規需要が市場を押し上げた。インドではオペレータの収益性によって地域割りをメトロ、カテゴリーA(インドではサークルAと呼ぶ)、B、Cに区分される。メトロは Mumbai、Delhi、Kolkata、Chennai の4都市で、サークルAは主に南部、サークルBは中西部、サークルCはネパール、中国と接する北部地域に大別される。

GSMの場合、1-3月のGSMの新規加入件数30,500万件の内、4都市のメトロの新規加入は11%を占める程度で、新規加入に関してはここ数年地方都市、農村部が完全にリードしている。2004年まではメトロ4都市の新規加入占有率は20%を越えていたが、以降20%を下回っている。インドでは中国のような振興プロジェクトはないが、3Gの延期を踏まえても2009年はローエンド新規需要が端末市場の最大の牽引力になる。

3Gの入札が1月に予定されていたが、延期され現在に至っている。インドでは総選挙が実施され、与党連合が大きく票を伸ばしている現状から、組閣が決まり次第日程の協議が進められる見通しである。ただDOT(通信省)と財務省の最低入札金額に依然開きがあることから、合意にはまだ時間を擁する見方もでている。

いずれにしろ入札事業者が決定しても試験、商用テストなど半年程度かかるため、実際の商用サービスの年内実施は困難な状況になっている。

2009年1Q(1-3月)報告書の目次

<ul style="list-style-type: none"> 1. 4カ国の1Q(1-3月)携帯電話動向 4 1.1. 3カ国の端末出荷動向概況 4 1.1.1. 中国 5 1.1.2. 台湾 5 1.1.3. 韓国 6 1.1.4. インド 6 1.2. 4カ国の加入推移 7 1.3. 2009年2Q国別端末出荷見通し 8 2. 中国 9 2.1. 2009年1Qの端末出荷動向 9 2.1.1. メーカー別出荷動向 9 2.1.2. 国内、輸出別出荷推移 10 2.1.3. メーカー別四半期出荷推移 11 2.1.1. 端末プラットフォーム 12 2.1.2. 参入各社の至近動向 14 2.1.2.1. Nokia 14 2.1.2.2. Motorola 15 2.1.2.3. Sony Ericsson 16 2.1.2.4. Samsung 16 2.1.2.5. LG 17 2.1.2.6. 国産メーカー 17 2.2. 加入推移 22 2.3. 中国3G 24 2.4. PAS (PHS) 普及状況 25 3. 台湾 26 3.1. 2009年1Qの端末出荷動向 26 3.1.1. メーカー別出荷動向 26 3.1.2. 国内、輸出別出荷推移 26 	<ul style="list-style-type: none"> 3.1.3. 台湾、中国生産拠点別出荷推移 27 3.1.4. メーカー別四半期出荷推移 27 3.1.5. 参入各社の至近動向 28 3.1.5.1. Arima Communications 28 3.1.5.2. Compal Communications 28 3.1.5.3. HTC 29 3.1.5.4. その他の台湾メーカー 29 3.2. 端末メーカー四半期業績推移 30 3.3. 生産委託の最新状況 31 3.4. 加入推移 32 4. 韓国 33 4.1. 2009年1Qの端末出荷動向 33 4.1.1. メーカー別出荷動向 33 4.1.2. 国内、輸出別出荷推移 33 4.1.3. 国内需要のメーカー出荷シェア 34 4.1.4. メーカー別四半期出荷推移 34 4.1.5. 参入各社の至近動向 35 4.1.5.1. Samsung 35 4.1.5.2. LG Electronics 37 4.2. 加入推移 39 4.2.1. オペレータ別加入推移 39 5. インド 40 5.1. 不正端末問題 40 5.2. 3Gほか 41 5.3. 端末メーカー動向 41 5.4. 加入推移 45 6. 参考 日本の四半期出荷推移 46 7. 主要メーカーの表記一覧(英語、中国語) 47
--	---